

教会たより

月報
NO. 451
11月17日

▼「何時もの駅で何時も会う」人がいる。残念ながら、「セラー服のお下げ髪」ではない。70才も後半とおぼしき男性だ。薄くなつてはいるものの長髪を束にし、白いカイヤル髭、服装もタンデューで、小柄ながら自立つ。一見、その筋の人風にも見えるが、毎朝夕、決まったロマンズカーに乗るのだから、堅気の人なのだろう。不動産屋の社長といった雰囲気だ。実際は何も分らない。

▼何度か見かけている内に、妙に気になる。たまたま顔を合わさないと、今日はどうしたのかな、心配するところ程の関わりではないのに、風邪でもひいたかなと考へてしまつ。多分、否は正確に、向うは私のことなど知らない。



▼同じように、「何時もの駅で何時も会う」もう一人の人がいる。これも、自立しているか、気にかかるとい

出会うの時

なのに、胸の部分が膨らんでいる。何日も顔の入れをしていないオカマといった風情だ。

▼もう一人と一匹は、全言の少年と彼に付きそう言導犬。何時も決まった車両に乗らう。犬は、電車の中で、どどどと腹ばいになり、乗降客の妨げになるへらう。いかに疲れ切った様子に見える。苦勞さんと声を掛け、頭の二つも撫でてやりたくなるが、それはけいけいという。何しろ、勤務中なのだ。

▼何の利害もない、ただ、同じ電車に乗り合わせ、繰り返し顔を見かけるというだけの関係だ。逆に、しばしば一緒になるのに、互いに何も関心を持たず、その事実さえ気が付かないということもあるだろう。むしろ、それが普通か。

▼二人目上げたアフロの男性を、思いがけない場所で見つ。泥酔しているのか、もしかしたらドラッグが、奇声を上げ、通りかかる人の全てに、怒鳴り散らしていた。私は見てもならないものを見てもいいように、シソクで、遠回りに離れようとした。その時、彼が私の方を見て、しばらく沈黙した。彼も私のことを何処の誰とも分らないままに、見知っていたのでないだろうか。そして、見られてはならないものを見られてしまったように、シソクだったのではないだろうか。

▼韓国や中国の大教会になれば、数千、場合によっては、数万の人が、一緒に教会・礼拝を共有する。それは、交差点ですれ違つような関係だ。せいぜい1000人程の日本の教会でも、孤立感を覚えるという青年が多い。

一方、教会に行くこと身上調査みたいにあれこれ聞かれて、裸にさせられるような気持ちがあるという青年も多。

12～1月の諸集会予定

諸集会を覚えて、ご加禱下さい。

収穫感謝日・謝恩日

11月24日(日) 特別の集会はありませんが、教会に信仰の実りがあるように、また70年近く教会を守つて来た信仰の先達を覚えて、ご加禱下さい。

クリスマス諸集会

待降節(アドベント) : 12月1日(日) から

主日礼拝(降誕節礼拝) : 12月22日(日) 10:30

クリスマス愛餐会 : 22日(日) 礼拝後

教会学校クリスマス会 : 23日(月) 14:00

燭火礼拝(イブ礼拝) : 24日(火) 19:30

キャロリング・燭火礼拝後

初週礼拝 : 1月5日(日) 10:30